

工学研究科 建築デザイン専攻 [修士課程]

ディプロマ・ポリシー(DP)	カリキュラム・ポリシー(CP)
<p>本専攻では、建築学の体系的な知を基盤に、建築デザインの創発的な実践力を身につけ、人間が構築する環境の諸課題に取り組み、人間社会の発展を支え未来を切り拓く、構想力と実行力を備えた高度専門職業人を育成することを目的とする。</p> <p>この目的を実現するために、以下の要件を満たすとともに、所定の単位を修得し、かつ、修士論文又は修士制作についての審査及び試験に合格した者に、修士（工学）の学位を授与する。</p> <p>①論理的な思考、文化的な想像力、創造的な発想から、多面的に現実空間の分析を進め、問題の本質を把握することができる建築学の体系的な知を身につけていること。</p> <p>②建築学における計画系、環境系、構造系のいずれかの高度な知識・技能を活用し、課題解決案を建築デザインによって具体的に提示できること。</p> <p>③構想実現のために、高度な専門性を活かし、最後まで粘り強く課題に取り組むことができる、研究・プロジェクトの総合的な遂行能力を身につけていること。</p>	<p>建築デザイン専攻では、学位授与の方針（ディプロマポリシー）に沿った成果を上げるために、カリキュラムを【基盤科目】【専門講義科目】【専門実践科目】【研究指導】から構成する。</p> <p>【基盤科目】と【研究指導】を必修としたうえで、【専門講義科目】では計画系、構造系、環境系のいずれかの高度な知識・技能を、【専門実践科目】では課題解決案を具体的に提示できる柔軟なデザイン能力と実務能力を、それぞれの学生の進路に合わせて学修できるように科目を配置している。</p> <p>これらによって、理論と実践の両面から学修できるカリキュラムとしている。</p> <p>単位は、必修科目 1 8 単位、選択科目より 1 2 単位、合計 3 0 単位を修得する。</p> <p>ただし、建築士試験の大学院における実務経験年数に関しては、大学等を指定科目 6 0 単位以上を修めて卒業していることを前提に、実務経験年数 1 年に該当するには、「インターンシップ 1」を履修することが必要である。</p> <p>また、実務経験年数 2 年に該当するには、必修科目 1 8 単位、「インターンシップ 1」「インターンシップ 2」「インターンシップ 3」の 1 4 単位、その他、選択科目より 1 0 単位の合計 4 2 単位履修することが必要である。</p>